

東北大災害研誕生へ

3次補正に建設費計上

21日成立した国の20年度第3次補正予算に、東北大が12年4月の

開設を予定する「災害科学国際研究所(仮称)」の建設費が盛り込まれ、東北大が12年4月の

た。東日本大震災の被災地で、地震や津波などの巨大災害を包括的に研究する機関が誕生する。建設予定地は、仙台市青葉区の青葉山キャンパス内。約1万平方メートル敷地に、5階建ての研究棟を建設する。総工費は約29億円を見込む。

東北大が研究所を新設するのは約70年ぶり。工学や医学、人文科学などの垣根を越え、100人以上の研究者が結集する。神戸大、イスタンブール工大などとの連携が既に決まっている。

東北大によると、研究所の研究課題は①超巨大地震・津波発生メカニズム解明と次世代早期津波検知技術の開発②災害発生後の被災地支援学の創設③広域災害に対応可能な医学と医療体制の確立(など)。

井上明久学長は「被災地の自治体や大学と連携して総合的な研究拠点を形成し、地域の再生や復興に積極的に貢献していきたい」とコメントした。